

平成29年度「ふくしま教育週間」関連事業

福島県特別支援教育センター教育公開セミナー

去る平成29年11月6日（月）に、福島県特別支援教育センター公開セミナーを開催し、地域の方にも多数参加いただきました。講師の宗方氏のお話をとおして、心に響く話し方で大切なことを学ぶことができました。

演題：「伝えるチカラ～心に響く話し方講座～」

講師：フリーアナウンサー ラジオパーソナリティー

宗方 和子 氏



心に響く話し方 ～伝えるチカラの要素～

- ①豪華一点主義。1時間の中で、大事なことを1つだけ伝える**
→欲張らずに一番伝えたいことにしぼる。
→ポツン、ポツンと人の胸に投げていくように話す。無駄な言葉（え～と～、あの～等）を省く。
- ②マイクを使うときは、マイクを片手で柔らかく持つ**
→声が固くならず抜けて聞こえる、緊張しない。
- ③聞く側が「いいよ」と思えるような聞く体勢、聞く準備をつくる**
→伝えよう伝えようと思っても 相手が「いいよ」と思わなければ伝わらない。相手の聞く気持ちを聞くことができるように、相思相愛になること。
- ④伝える準備を大切にする**
→声の調整や発声練習「アエイウエオアオ」などを行うことで、声が出るようになり滑舌もよくなる。

福島県特別支援教育センターの相談について

相談者の思いや願いに寄り添い、特別支援教育の視点から、子どもたちの健やかな成長を促す教育相談を行っています。お気軽にご相談ください。

○相談専用電話
024-951-5598

○相談時間
9:00～17:00

○電話相談：月曜日～金曜日

○来所相談：火曜日～金曜日
（事前予約が必要です）

○相談対象
障がい等の心配のある乳幼児、児童生徒の生活、学習面等の改善に向けた相談を、主な対象とします。

相談室



フレイルーム①



フレイルーム②



平成29年度 公開講座紹介

前号に引き続き、当センターで行った公開講座の紹介をします。

「発達障がいのある児童生徒のライフステージを考える」

発達障がい者支援センターの所員の方々から、具体的な症例を挙げて各ライフステージにおける課題や支援について御講義をいただきました。

医長の伊瀬陽子氏からは、幼児期、学童期における支援の在り方について、学校と医療機関が連携して支援にあたった症例を挙げて説明いただきました。センター長の増子博文氏からは、中学校、高等学校における発達障がいのある生徒の課題や支援について、薬物療法やネットやゲーム依存などの症例を挙げて説明いただきました。心理嘱託員の成田由美子氏、就労支援嘱託員の小林ゆかり氏からは、発達障がいのある方の就労支援について説明いただきました。

それぞれのライフステージを意識した支援の在り方について学ぶことができました。



「障がいのある幼児児童生徒とのかかわり合いを考える」

実践女子大学教授の長崎勤先生より、「コミュニケーション発達支援の考え方とスキル」について、ワークショップも交え講義をいただきました。大切なのは、「人と何かを共にし (share)、またそのことを楽しむこと=協同活動 (co-operative activity)」をとおして「誰かのために何かをする」という役割意識を育てること。障がいのある子どもにおいても特別な配慮 (教育的かかわり) により豊かなコミュニケーションが築かれていくということ学びました。

発達を促す援助
少し上の段階に取り組む達成レベル(N)
達成レベルの1つ上のレベル(N+1)

【教育的かかわり】

- ①遅延 (子どもからの反応を5秒待つ)
- ②モデル提示 (手本を見せる)
- ③身体援助 (最終的に身体援助をする)



「ストレスで起こる病気と笑いを生かした対処法」

～チーム力向上のためのメンタルヘルスとリスクコミュニケーション～

福島県立医科大学医学部主任教授であり、健康増進センター長でもある大平哲也先生より、「ストレスと上手くつきあうところからだづくり」について、講義をいただきました。適切なストレス解消が健康な生活につながることを学びました。また、「笑い」の影響について、科学的なデータをもとにお話いただきました。「笑う」という行動そのものがストレスを解消することにつながることで、生活に「笑い」のある人たちは病気や認知機能低下のリスクが低くなることなどがわかりました。最後に「笑いヨガ」を体験しながら、楽しく学ぶことができました。



ほっほっ、
はははーっ(^o^)!